



4月14日、菊池市長選挙開票日。
菊池市の新しいリーダーが誕生した。
市民が選択したのは、江頭実市長。
求められているのは、「新しい風」。
江頭市政が起す風とは――。

1 職員からお祝いの花束を受け取り笑顔を見せる江頭市長



2



3

2 4月15日、市役所で当選証書を受け取る江頭市長
3 正面玄関で江頭市長の初登庁を待つ同級生の皆さん
4 盛大な出迎えを受け笑顔を見せる江頭市長
5 市長就任式では集まった職員を前に訓示を述べた



4



5

菊池市「新章」始動。

江頭市長初登庁日の4月24日午前8時10分。正面玄関には300人を超える市民と職員が集まった。徒歩で登庁してきた江頭市長の姿が見えると、正面玄関は一気に歓声に包まれた。江頭市長は、盛大な歓迎に驚きながらも「ありがとうございます」と満面の笑顔で応えた。

引き続き庁舎内で就任式が行われ、集まった職員に対し「我々は同じ船に乗っている同志。漕ぎ手がばらばらでは船は沈んでしまう。ふるさと再生に向けて力を結集しましょう」と訓示。新たな市政運営への協力を呼びかけた。

江頭市長は、旧富士銀行（現みずほコーポレート銀行）時代の海外勤務やソフトバンク勤務を経て、昨年7月に帰郷。9月には市長選への立候補を表明した。選挙戦では、市民目線でしがらみのない開かれた市政をアピール。豊かな自然や温泉を生かした「癒しの里づくり」による観光誘致、農産物のブランド構築、ネット通販などを掲げ、「新しい風」を求める市民の心をつかんだ。

菊池市は本年度で合併9年目を迎えた。「市に境界線はない」と地域間の融和を図り、市民参加のまちづくりでふるさと再生を目指す。

Fresh wind is blowing

千風万来

学生時代のあだ名 **みのっちゃん**

好きな食べ物 **果物、野菜**
 苦手な食べ物 **肉の脂身**

好きな音楽 **ジャズ、室内楽**

好きな映画 **ベン・ハー、ウエストサイドストーリー**

好きなテレビ番組 **お笑い、ふれあいまち歩き**

趣味 **ガーデニング、登山、ロッククライミング、マウンテンバイク**



江頭実です

Minoru Egashira

靴のサイズ **25号**
マッターホルン登頂
 40代半ばでマッターホルン(アルプス山脈に属する標高4,478メートルの山)に登頂。登頂した瞬間は「もう登らなくていい!」という安堵感と、「夢が自分の足の下にある」という達成感に包まれた。

私が市長の

A new mayor Profile

身長 **165号** 体重 **58kg**

視力 **0.6 (裸眼)**
 体脂肪率 **11~13%**

外国語会話 **英語、ドイツ語**

座右の銘・モットー
 「人生我以外皆我が師なり」
 「自分には厳しく、他人には優しく思いやりを」

好きな本
司馬遼太郎の歴史エッセイ

性格・長所
 前向き思考、好奇心旺盛、環境適応能力が高い、集中力が高い、行動力がある、素直



えがしら・みのる
 昭和29年4月1日生まれ。昭和47年菊池高校卒業。昭和51年九州大学経済学部卒業。銀行や民間企業に勤務するなか16年間の海外勤務を経験。平成24年帰郷。平成25年4月菊池市長に就任。隈府在住。59歳。

OFF



ON

市民の声!

市長に伝えたいあんなことやこんなこと。そんな市民の“ひとこと”をインタビュー!



武藤比呂子さん (主婦)
 自然豊かな菊池ならではの子育て環境と、川遊びや山遊びが安全に安心してできる場所が増えたらうれしいです。



稲継智康さん (会社役員)
 農産物と同じように、地元の企業を生かしたものづくりも推進して菊池市自前のブランドを作ってほしいです。



原 文代さん (農業)
 菊池には日本一のお米をはじめ豊富な農産物があります。学校給食での食育など地産地消にも取り組んでほしいです。



水上敏樹さん (自営業)
 市長には市民に身近な存在でいてほしいです。市街地だけでなくいろんな地域の魅力を掘り起こしてもらいたいです。



平山一浩さん (酪農業)
 市外からの移住や就農などもっと人が集まるしくみがあれば、農産物の生産・消費拡大につながると思います。



内山千枝子さん (主婦)
 高齢者世帯の交通手段や福祉サービスなどを充実し、老後も安心して暮らせるまちになればと思います。



石本恵朗さん (自営業)
 市民目線で開かれた市政運営をお願いします。防災など市民相互で支え合う、安心・安全なまちにしてほしいです。



廣瀬 恵さん (パート)
 商店街が活性化するような取り組みをしてほしいです。ベビーカーなどが利用しやすい環境整備もお願いします。

見据える先は、その頂よりも高く――

所信表明

江頭市政の1年目がスタートした。行く手には多くの課題が立ちはだかる。菊池の明るい未来を実現するため、まちづくりへの第一歩を踏み出すに当たり、江頭市長が所信を語った。

菊池市は宝の山

地方を取り巻く環境は、経済の低迷、人口の減少、少子高齢化などに歯止めがかからず依然として厳しい状況にあります。

地方分権の流れのなか、地方自治体には地域の特性を生かした創意工夫と、自らの地域を自らの手で持続可能に経営していくことが強く求められています。

こうしたなかで、私は菊池に新し

い風を起こすという熱い思いを胸に、市民の皆さまと共に新しいまちづくりに取り組んでいきたいと考えています。

本市は、素晴らしい素材がたくさんある宝の山です。企業的な経営方法や新しい考え方で発想を盛り込んで菊池の自然の恵みを守り、自然を生かして穏やかな発展を続けていく「安心・安全の癒しの里」を目標とし、新しい菊池の未来像を描いていきます。

3つの課題

新しい菊池の未来像を実現するためには、多くの課題をクリアしていかなければならないのも事実です。総括すると、現在本市が持つ課題は次の3つに整理されると考えます。

①経済の低迷

地方都市の多くは中心市街地の衰退が進んでおり、本市も例外ではありません。観光業・商業は不振が続き、若者の就職難、人口減少・高齢化などに伴い経済低迷の悪循環が続いています。経済に元気を取り戻すことが何よりも急務です。

②財政基盤の構造変化

平成26年が普通交付税の合併算定の期限であり、平成27年から5年間で段階的に交付税が減額されます。その結果、現状よりも大幅な減収となり、市政運営に大きな支障が生じる恐れがあります。これまで以上に合併の本来の目的である行財政の効率化に努める必要があります。

③新市の一体感の醸成

庁舎問題を発端に、一部の市民に感情的しこりが残りました。問題の根底には、旧4市町村間での不公平感も影響していると思われます。残念ながら、4地域間での相互信頼感

がまだ醸成できていない状況があります。

課題解決の仕組みづくり

素晴らしい宝の山である本市をより良い形で次の世代に引き継いでいくために、課題解決の方策として3つの仕組みをつくっていきます。

①経済活性化の仕組みづくり

経済の建て直しが一番の課題です。世界的な大きなトレンド（潮流）は、「健康志向」「自然回帰」です。この観点から見れば、本市が持つ自然力は手付かずの宝の山と言えます。この特性を生かし、農業と観光を今後の経済活性化の車の両輪と位置付けます。そこに企業的な経営手法や外部とのネットワークなどを活用して振興を図っていきます。

具体的には、まず「農業」です。安全・安心の品質イメージと、インターネットによる販売を戦略的に組み合わせ、高品質・高付加価値化を図り、より「儲かる農業」を目指します。仮称ですが「菊ネット」というようなインターネットショップを立ち上げ、一定の品質基準となる「菊池基準」を策定し、ブランドイメージをつくり出します。このような販売戦

←次ページへ続く



略と宣伝方法の工夫についても検討していきます。

次に「観光」です。自然や歴史・文化資源などの豊富なコンテンツ（素材）を活用し、心に訴えるさまざまな仕掛け・仕組みを通じて「癒しの里」のイメージを構築していきます。特に「森の中のまち」・「さくららの里」・「ホテル王国」などを具体的な手掛かりとして進めていきます。菊池ファンとも言えるべきピーター（固定客）を増やしていくことで、農業との相乗効果にも繋がっていきます。

このような自然力を生かした戦略を支えるためには、環境保全への取り組みが不可欠です。産廃問題やごみ処理問題の決着を図るとともに、中期的には小水力などの自然エネルギーを活用し、自然の恵みを生かした循環型社会のモデル地方都市を目指します。

②効率化の仕組みづくり

行政コストを下げるのが合併の大きな狙いであり、より一層の効率化を進めていきますが、行政サービスの品質の維持・改善が前提となることは言うまでもありません。

まず、庁舎などの整備については、合併協議会で確認された本庁・支所

方式と、議会で承認・議決された経緯を尊重して進めていきます。無理無駄が起きないように、市民の意見を聴きながら計画の精査も併せて行います。

次に、窓口業務や公共施設の資産運営のあり方などについても見直しを行っていきます。市政への市民の参画を促す手法を用い、市民が主体となった自立的で効率的な社会、いわゆる「新しい公共」の考え方も取り入れていきます。そうすることにより、行政コストを抑えられるだけでなく、市民の心に強い郷土愛と誇りが生まれると思います。

③公平公正の仕組みづくり

市政への市民参画を進めるために、何よりも情報の公開、共有、そして双方向の意見交換の仕組みが必要です。具体的には、諸運営ルールの見直しや市民に分かりやすい市政の「見える化」を進めます。

市民一人一人が主役になる仕組みを作るためには、「市長と語る会」などの機会を増やし、市民の声を聞く仕組みを具体化します。重要な問題については、市民の皆さんの声を聴く「市民政策会議」などの審議会や検討委員会の設置についても検討し、市民の皆さまへの説明責任を果

たしていきます。

以上3つの仕組みづくりを通じて課題の解決に取り組んでいきます。そのほか、菊池の価値を永続的に高めていくために、教育の振興に努め人材の育成を積極的に図ります。人材育成は、私たちの永遠の最重要課題であり、自分で考え行動する、知恵と気概と郷土愛を持った人材の育成、教育の強化に力を注ぎます。

行政運営の重要な視点

その他にも課題を解決していく上で、行政運営に当たり重要な視点があります。

①市民目線

常に市民目線で考え行動し、スピードと品質を意識して市民の皆さまが満足するサービスの提供に努めます。

②連携力

各種経済団体・企業・市民団体・4地域・他市町村・メディアなど、さまざまな外部との連携・ネットワーク化を図ります。

③発信力

菊池の良さ・魅力が外部にアピールできていません。日本一の桜並木や日本一のホテルの里づくり、日本

一の安全・安心な給食など、発信力のある企画を立案し、全国への情報発信に努めます。特に来年は桜シンポジウムの開催や菊池温泉湧出60周年、合併10周年などのさまざまな企画を重ね合わせ菊池のPRを推進します。

④活力・チャレンジ

上下左右風通しの良い声の上がる職場を目指し、新しいことへのチャレンジを大いに推奨していきます。これらを市民・職員と共有し、更なる職員の意識改革と資質の向上、ならびに市民の皆さまと一体となった市政運営に努めていきたいと考えています。

菊池の自然の恵みを守り、自然を生かして穏やかな発展を続けていく「安心・安全の癒しの里」が早期に実現できるよう、市民の皆さまのご理解、ご指導、ご協力をよろしくお願ひします。

菊池市長 江頭 実

※記事は抜粋しています。全文はホームページをご覧ください。

一歩ずつ、明るい未来へ――